



黄河の森

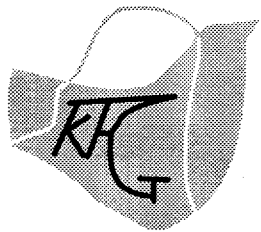
K F G

発行/特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表/林 同春
編集責任者/KFG事務局長 林 青彦
〒650-0011
神戸市中央区下山手通り12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX 078-392-8328
郵便振替/00930-0-186105
NPO法人黄河の森緑化ネットワーク



《緑と!鳥と!》

撮影 辻 恵子



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 KFG、NPO法人に認証される
- P.2 NPO法人黄河の森ネットワークとして
- P.3 事務所開設のお知らせ
- P.3 黄土高原植樹ワーキングツアーの思い出
- P.3 トルファンの素敵な思い出
- P.4 私の植えた「子の手柏」早く大きく育て
- P.4 六甲山クリーンアップへの参加
- P.5 黄土高原の植物 I
- P.5 2004年黄土高原植樹ワーキングツアーのお知らせ
- P.5 会務報告

黄河の森緑化ネットワーク (KFG) NPO 法人に認証される

—— さらなる活動の環を広げよう!! ——

2003年12月22日(月)県民会館において、KFGは特定非営利活動法人黄河の森緑化ネットワークの認証を受けました。

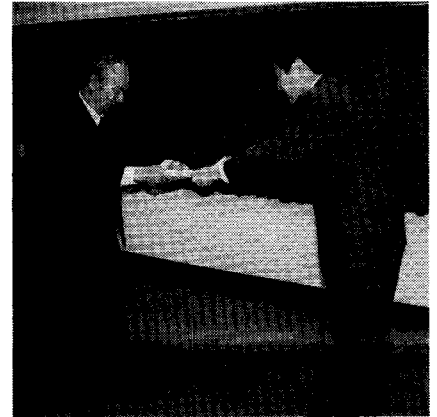
当日、石/永山副代表、林事務局長が認証式に出席し、代表に代わって石副代表が認証書を受取りました。

今回認証を受けたのは22団体で、県下では477団体となりました。

NPO法人として社会的信用を認められたと同時に、社会的責任も負

うことにもなりますとの兵庫県民政策部県民文化局の大鳥局長のごあいさつがありました。

法人化を機会にKFGの活動をより充実にして更に会員を増やして、緑化活動の環を広げていきたいと思っています。



大鳥局長から認証書を受ける石副代表

NPO法人黄河の森緑化ネットワークとして 地球に緑を！黄土高原を森林に！

NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク
代表理事 林 同春
(神戸華僑総会名誉会長)
(兵庫県外国人学校協議会会長)

輝かしい21世紀の幕開けからはや4年目の新春を迎えました。「地球に緑を！黄土高原に森林を！」と環境問題に目を向ける「黄河の森緑化ネットワーク」会員の皆様には、益々ご清栄ご多幸の新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年はアメリカのイラク侵攻、小泉首相の追従、国内政治の混迷、経済の低迷など内外とも真に激動の年でありました。一方、中日両国間では、中日平和友好条約締結25周年、中国が世界に向けて第1号の友好都市提携をした神戸、天津友好都市締結30周年の記念すべき喜ばしい年でもありました。

21世紀のはじめに「黄河の森緑化ネットワーク」が「日中友好記念林」を発足させて4年目の春を迎えます。その間、3回の植樹ワーキングツアーを組み、第1回18名、第2回32名、第3回47名、年々増加する皆さんと一緒に黄土高原砂漠地帯で汗を流し、植樹して来ましたことは心爽やかな思いがいたします。

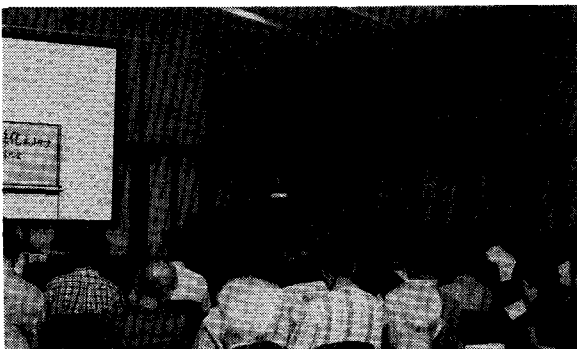
申すまでもなく、植樹事業にはやる気、本気、根気、と共に自らも元気であることは何より重要でありますので、健康に気を付けていただいて、「日中友好記念林」事業に一層力を入れて頑張りましょう！

当「黄河の森緑化ネットワーク」

を末永く立派なボランティア活動団体として、続けて行くために、特定非営利活動法人(NPO)とすることを申し合わせ、昨年から進めておりました(NPO)法人団体としての申請が昨年12月22日認証され、12月24日をもって法人成立されたことはご同慶の至りです。

なお、昨年末までの登録会員数は270名ですが、これを契機に今後更に多くの会員を増やして参りたいと存じます。会員皆さん一人一人のご尽力をお願い致します。

末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と中日友好の一層の発展を祈願致します。



2003年7月26日 総会会場



KFG顧問徳岡正三先生の講演

事務所開設のお知らせ

皆様のご理解とご協力により、会員数は270名と着実にふえています。裏方の事務局は嬉しい悲鳴に追われて、会員皆様に関心に十分こたえることができなくなって気がかかっていました。

この度、後援団体でもある神戸華僑総会のご協力により、華僑会館内

に念願の事務所を設けることができました。デスク・ロッカー・電話および電話機、そして事務用品などは会員皆様からのご協力ばかりです。

KFGの活動は全て各理事・会員皆様の手弁当で運営されています。事務所運営につきましても、まだ有報酬専従者をおくことはできません。

理事有志による当番制にて対応していく考えであります。多少のご不便な点をご理解の上、ご協力お願いします。

- 場所 神戸華僑会館2F205
- TEL・FAX 078-392-8328
- PM. 13:00~17:00(有人)
- 土・日・祭日は休日

黄土高原植樹ワーキングツアーの思い出

不毛の大地を緑豊かな大地に!



私が植えたこのコノテガシワ。早く大きく育って

旅立つ前から興奮の納まらない、感激を抱えて大阪を出発しました。そもそも、私の中では命をさずかった(場所)が大陸の真ん中の旧満州である事を知り、故郷がそこに在ると判った時から生涯の内にどうしても訪ねたいと念じてきました。不幸にして今までは、生活の為にも経済的にも許されませんでした。自分の始まりの大地に立つという生涯の夢がかなえられた貴重なツアーでした。

今回のツアーにお誘い頂いた辻さんに心からの感謝をします。

蘭州の黄土高原を始めて見た感慨は、見渡す限り幾重にも連なる一木も無い山々を眺めてこの国は素晴らしいな。想像も出来ない広大な大地を持ち、そこに住む人達の穏やかでのどかな表情を見ると、悠久の大地とはこの事かも知れないなと感じた事でした。

其の場所に暮らす人達が長い自然との戦いの歴史の中で見つけ出した究極の選択が、不毛の大地を緑豊かな大地に変えると決めたそのスケールの大きな夢と、国を挙げて挑む緑化に対する熱い思いと行動を目の当たりにして、改めてこのツアーに参加出来た感激を味わいました。

このツアー参加者が同じ思いで、黄土高原を緑に変えて未来の子ども達に心豊かな暮らしや、美しい自然

を残したい。そんな願いをこめて一本一本の苗木を無事に育てようと愛しさを感じながら丁寧に植えて来た事だと思います。

遠い未来この大地が緑一面に変わる姿を想像すると、自分達の生きた証しとして今一本の木を植える事が、子々孫々にひそかに誇れる心の財産になるのではないのでしょうか。

現地スタッフの緑化に対する真摯な努力と熱意を私達も決して忘れることなく、富める者もそうで無い者も例えささやかでも誠意のある浄財が1円でも多く、この推進に寄せられる様に心から願い、皆さんと共に再びあの大地に立てる日を楽しみに待ちたいと思います。

このツアーに参加出来た有意義な時間と、人との巡り合いを感謝して皆様有難うございました。

梶谷 公哉
(ツアー初参加)

トルファンの素敵な思い出

これで3度目になるが、蘭州へ行く度、厳しい自然に圧倒されてしまう。乾ききった空気と大地、あまりに広大な空間、山々、黄河の激しい流れなど。厳しい環境でも、木々は立派に育っている。

目に映る緑の量が毎年増えてきている。それから、今回はウルムチとトルファンを旅した。中国の風景とは随分と違って、ウイグル語が街に並んでいる。トルファンで夜バザール

へロバに乗って行った。広場でシカバブーを焼いたり、大きくて横長のとってもおいしいスイカを、深い面立ちのおじさんが、アラビアンナイトに出てくるような大きなナイフで切ってくれた。

また、トルファンの市場で少し散策した時、じゃがいもを売っているおじさんと話をした。「我可以拍照嗎?」と聞くと、いいよと笑ってくれた。日本からと言うと、東京知って

ると言ってくれた。また、特産の干しぶどうを買いに行った時、干しぶどうをより分けている人達がいて、おいしいの?って聞くと、もちろんと両手にたくさん干しぶどうのをせてくれた。

そんな会話のあれこれが、素敵な思い出となっている。ここの干しぶどうは、種類が多く甘酸っぱくて本当に美味!

小舟 愛子
(ツアー参加3回目)

私の植えた「子の手柏」早く大きく育って

松下 昭

(ツアー初参加)

私は日新信用金庫に勤務させて戴いて33年。そして、平成14年4月より取引先の多くの顧客が神戸在留外国人の神栄支店に勤めさせて戴いて1年半。その間、金融史上あまり先人が経験した事の無かった信用金庫業務の事業継承を経験致しました。つまり、お客様の多くが華僑・華人との取引であった神栄信用金庫から日新信用金庫への事業譲渡・譲受業務も、大多数の華僑・華人の皆様のご理解とご協力により順調に、そして頗る円満に遂行させて戴きました。そして引き続きのご愛顧が現在へと通じ、日新信用金庫神栄支店の営業繁栄に、ご支援賜わっております。その為、私は中国に特別な感慨がありました。これだけ事業継承がうまくいったのは、華僑・華人の皆様のおかげ。中国のおかげ。といつも感謝の気持ちを抱いております。そこで今年の2月に、旧神栄信用金庫、華僑信用金庫の前身華僑福利合作社の創設者初代理事長故王昭徳氏の出身地台湾省台中県大甲鎮の地に、まず最初に事業継承の経過説明と華僑・華人の皆様へのお礼・感謝の気持ちを報告に伺い

ました。そして今般、中国大陸への日中友好林ツアーに参加させて戴きました。従って、参加目的(動機)は、①中国大陸の地に事業継承の経過説明と華僑・華人の皆様へのお礼、感謝の気持ちを報告すること。②地球環境問題の重要性認識を皮膚感覚で享受。さらに植樹を体験し、微力ながら日中友好の手伝いをさせて戴く事を目的に。確かに20世紀は人間が、他の生物の意に介さず、地球を余りにも自由に使い過ぎた。21世紀は地球に優しく、自然環境を健全な姿に戻すべく、私一人の力は微力ですが、小さな一歩、僅かな協力でも何かのお役に立てるかもしれないと考え、さらに足元を譲ってくれている土壤に、支えてくれている地球に感謝し、恩返しに成ればと思つて植樹ツアーに。③そして最終目的として、現在の神栄支店取引先お客様の保有されているチャイニーズカルチャーを共感・共有出来ればと思ひ、参加を決めました。8泊9日、出発前には長い旅だなあと予想していましたが、アツという間にもう最終日9日目。今日もう日本へ帰るのですネという気持ちで

経過しました。とても楽しくて有意義な9日間のツアーでした。非常に充実した旅行に感じた訳は色々要素があったと思われますが、私の感じでは、まず第一にほのぼのとした温かい雰囲気。参加されたメンバー46名の性別、年齢、経歴他属性も多種多様である筈なのに、さらに私も含めて初参加で、初対面の人々も多い旅行団なのにとってもアツホームなチームワーク。次に神戸、日本、中国、アジア、を超越した地球規模でのCO₂問題への少しでも貢献出来たという充実感。そして天候に恵まれ、周りの人々、出合った人々の気配りの優れた親切な言動が、満足感をより高揚させたのだと思います。私の植えた「子の手柏」の苗木を含め、今回ツアー一行が植えた約500本の木々が「早く大きく丈夫に育って」との我々の願いが通じ、蘭州市の山々が緑あふれる姿を夢に見つつ、そして本植林ツアーでの数多くの素晴らしい出会いと、楽しい思い出を胸にペンをおきます。有難うございました。謝謝。再見(再び訪問の意を込めて)。



六甲山クリーンアップへの参加

— 身近にできることから始めよう —

年1回黄土高原への植樹ワーキングツアーは、KFGにとって大事な活動です。それと同時に自然環境問題は地球規模と身近な視点から考え、できることから行動することも大事です。

今、緑豊かな六甲山は100年前現在の黄土高原と同様荒れた禿山だった。

緑豊かな森を子孫に残す思いで小さなゴミ拾い活動を通して、自然環境に関心を持つ、そんな環を広げることが大事です。皆さんに親しまれている六甲山でのクリーンアップキャンペーンにKFGも参加することにしました。会員の皆さん、ふるって参加しましょう。

- 日時 2004年4月11日(日)
小雨決行
- 集合 阪急芦屋川駅北側
AM. 9:00
- 歩行 4時間 約10km
- コース 芦屋川駅～公園～高座の滝～高座谷～風吹岩～横池(昼食)～雨ヶ峠～東お多福山～同登山口バス停(バス停より芦屋川駅へ)
- 携帯品 弁当・水筒・雨具・タオル
軍手・帽子
- 参加費 100円(保険料)
- 責任者 林 青彦
- サブ責任者 安本昭久

通常総会・講演会・懇親会と写真&スケッチ展のお知らせ

■総会・講演会・懇親会

- 日時 5月23日(日)PM13:30～16:00
- 場所 トアロード中華会館7Fホール
- 講演 KFG顧問 徳岡正三先生

■懇親会

- 日時 5月23日(日)PM17:30～19:00
- 場所 中華会館6F
- 費用 3,000円

■写真&スケッチ展

- 日時 5月22日(土)～24日(月)
- 場所 中華会館6Fロビー

03年度ワーキングツアー参加者の写真展と画家辻恵子の(理事)と会員梶谷公哉氏のスケッチ展

辻 恵子 展

- 日時 3月6日(土)～3月11日(木)
AM. 11:00～PM. 18:00(最終16:00)
- 場所 ギャラリーオスカ
神戸市中央区下山手通7丁目13-24
TEL. 078-361-3567

辻さんはKFG理事で今回の展示では、ロマネスクの旅から30点“中国の旅から”のデッサンと水彩25点が展示されます。

黄土高原の植物 I

KFG顧問 徳岡正三

(高知大学農学部森林科学科教授、農学博士)

側柏 コノテガシワ

中国のお寺や公園をめぐる、たいていコノテガシワを見かける。中国原産でもあるし、人々にはなじみの木だと思われる。ところが、「常見樹木・昆虫・鳥100種」(中国林業出版社、1999年)を見ると、同じヒノキ科の円柏(ビャクシン)は常見樹木(よく見る木)としてのつてゐるが、コノテガシワはのつていない。コノテガシワはどちらかと言えば「通」の木なのかもしれない。一般には目立たぬ木であるとしても、荒地、特に黄土高原の緑化ではがぜん目立つ木になる。

蘭州の友好林もざっと見るとコノテガシワばかりが目に入る。コノテガシワは痩せ地や乾燥地にも耐えて成長できるので、それだけたくさん植えられるわけである。ワーキングツアーのメンバーが植えたのもコノテガシワである。

日本の漢字ではコノテガシワを扁柏と書くが、扁柏は中国では日本のヒノキを意味する。中国にはヒノキは分布せず、中国語の桧はビャクシンの別名である。カシワの漢字には柏と榧がある。柏はヒノキ科の植物をさし、榧はかしわ餅のカシワのことであり、ブナ科の植物をさす。まったく木の名前というのはややこしい。

筆者の世界では植物名はカタカナで書く約束があるので、ここでもカタカナで書くようにしている。カタカナだと漢字より間違いが少ない。

一般に植物の葉には表と裏の区別があるが、コノテガシワの葉には表と裏の区別がない。これは図のようにコノテガシワの枝葉が扁平で、だいたい垂直に立つからである。コノテとは児の手といい、枝葉が手のひらを立てたような姿をしていることからきているという。カシワは上述のようにヒノキ科の植物を表している。コノテガシワとは枝葉が手のひらを立てたような姿をしたヒノキの仲間ということになる。中国名の側柏の側は斜めに傾く意味があるので、やはり枝葉が立つことから名づけられたのであろう。年齢がいくと図の

ような球果(実のようなもの)ができる。これはツノのようなのがあり、これもコノテガシワの特徴の一つである。

友好林にはコノテガシワの仲間(変種という)の一つである千頭柏(センジュ)も少しであるが植栽されていた。これは本来庭園や公園に植えられ、根元から株立ちし、たくさん幹がある樹形をする。日本ではその姿から千手、千指(センジュ)と呼ばれる。確かにコノテガシワよりあかぬけており、なるほど観賞用の木だと実際にはじめて見て納得した。

これからコノテガシワと長い付き合いがはじまる。ほんの少しでもいいから厳しい環境にめげず成長してほしいと願うだけである。



2004年黄土高原植樹ワーキングツアーのお知らせ

- 10月8日(金)～10月16日(土) 8泊9日
10月9日(土)中日友好林植樹活動のあと世界遺産登録の九寨溝・黄龍への旅を楽しむ。
- 10月9日～10日の2日間を植樹活動にあてるコース
10月8日(金)～10月13日(水) 5泊6日
蘭州・西安・上海 (いずれのコース共、参加人数15名以上)

この機会に会員同士の交流
および自ら苗木を植えてみ
ませんか!

【お問合せ】

㈱神戸華聯旅行社 担当 金 啓功
TEL078-391-5185 FAX078-332-4458

会務報告

2003年7月26日(土) 中華会館7Fホールにて通常総会開催。会員数169名のうち出席38名、書面議決書提出21名、委任状65名、計124名で総会が成立しました。2002年度事業決算・監査報告とその承認2003年度収支予算(暫定)の承認。

同日 NPO法人設立総会開催会員数169名のうち出席41名、書面議決書提出21名、委任状65名、計127名で総会が成立しました。2003年度事業計画・収支予算の承認。2004年度事業計画・収支予算の承認が行われました。

- 2003年7月26日(土) KFG顧問徳岡正三、高知大学農学部森林科学科教授による講演「黄河は青河だった」が行われました。また、6Fにおいて、理事・顧問・会員及び蘭州市より神戸大学への留学生2名をまじえて、手づくり料理の懇親会が行われました。
- 8月3日(日) 中華会館6F第1会議室にて第1回理事会開催。
- 8月11日(月) 石ノ永山副代表、林事務局長NPO法人申請の件で県庁NPO法人係りへ。
- 9月8日(月) 永山副代表、林事務局長NPO法人本申請の件で県庁に提出。
- 10月5日(日) 中日友好林において記念碑除幕式が行われ、2003年度緑化支援金180万円のうち130万円を手渡した。会員全員でコノテガシワ500本を植えた。また、現場附近の植樹モデル林を視察した。
- 10月10日(金) ウルムチ副市長と会見。市政府関係者と会員との座談会が行われ、ウルムチ市より緑化政策説明のあと、96年より植林されている妖魔山モデル林を視察した。
- 10月26日(日) 華僑会館にて第2回理事会、ワーキングツアー報告、事務所設置、今後の活動実施について。
- 11月30日(木) 華僑会館にて第3回理事会、事務所開設報告、2004年度六甲山クリーンアップ活動計画、2004年度ワーキングツアーについての協議。
- 同日 ワーキングツアー参加者と理事・監事31名による懇親会を群愛飯店本館にて開催。
- 12月22日(月) 特定非営利活動法人認証交付の件で石ノ永山副代表、林事務局長、県民会館での認証式出席。
- 12月24日(水) 永山副代表、林事務局長、法務局へ法人登記により法人成立。

会費・支援金継続のお願い

会員の皆様のご協力により、KFG活動に対する環は着実に広がっています。どうもありがとうございます。初年度の会員さんに2回目のご協力のお願い書を送らせていただきますので、引き続きご協力よろしく願いいたします。



黄河への水先案内は、もしかしたら母だったのかも
しれない。幼い私に、幾度となく話してくれた中国の広
さ美しさを思い出す。結婚前だった昭和のはじめ、彼
女は紡績の指導員として天津に2年間ほど暮らしてい
たらしい。「真っ赤な大きな太陽が地平線のかなたに
しずんでいくんよ。それはそれは美しい。」悠々と流
れる大河、緑の大地はこの太陽と同じ景色の中にある。
不思議にも天津と姉妹都市の神戸に嫁ぎ、「黄河の森」
と出会った。その彼女も逝って25年そろそろ本当に、
母の好きだった景色をこの目でみたいと思っている。

畑中 弘子 (児童文学者)